戦前期外地の文化機関を中心とした絵葉書一覧　Ⅰ.旅順

岡村敬二編

これは、満洲を中心とした外地の葉書写真の一覧である。これらの葉書写真は、主として満洲の図書館およびその蔵書の集積について研究する過程で収集された。ただ図書館自体の葉書写真はそんなにあるわけでもなく、ここに紹介するものも、満洲の文化機関や大学、官庁の建物、街並みや公園などが大半である。

写真は、旅順・大連・奉天（現瀋陽）・新京（現長春）・哈爾浜・撫順・朝鮮・中国その他の地域、など都市別に編成した。それぞれの葉書写真には簡単な説明を付け、またまとまりのある写真群には、その変遷を理解するため簡単な記述や年表も附した。ただそれら機関や施設などの詳細を説明するのは煩雑になると考え、説明は主として編者の興味のあることがらを簡単に記した。これら写真の施設の幾つかは、これまで実際に訪問したこともあり、現況の写真も撮影してあるのだが、古写真と現況との対比については、インターネットに数多く写真も掲出されてあることもあって、施設の現況については言及していない。

なお編者の付したこれらの説明は、以前に作成した資料展示図録『満洲の図書館』『終戦時新京蔵書の行方』を援用している。これら図録もご参照いただけるとありがたいと思う。

Ⅰ. 旅順

日露戦争後に日本が租借した**関東州統治機関**の変遷は次の通り。

明治 38（1905）年 9 月 関東都督府設置、本部は遼陽

明治 39（1906）年 8 月 旅順に移された関東都督府に旅順民政署がおかれた。

大正 8（1919）年 4 月　関東都督府を廃し、陸軍部が独立して関東軍司令部、民政部は関東庁となる

昭和 7（1932）年 8 月　関東軍司令官が関東庁長官・特命全権大使を兼任

昭和 9（1934）年 12 月 関東庁は廃止、新京の関東局が継承、大連に関東州庁

旅順 1「旅順関東庁」。関東庁は、大正 8 年 4 月以降昭和 9（1934）年 12 月までのあいだ存続した。

旅順 2「[旅順]関東庁 明治三十八年開城當時は此れに多數の負傷者を収容した憶出深き建物である」。なおスタンプには、「水師營 5.9.19」とある。

旅順 3「旅順民政署」。関東都督府は明治 39（1906）年 9 月に置かれ、旅順にも民政署が設置された。

旅順 4「旅順関東軍司令部」。大正 8（1919）年 4 月に関東都督府から陸軍部が独立して関東軍司令部となり、民政部は関東庁となった。

旅順 5「旅順関東軍司令部」

旅順博物館・図書館の変遷は次の通り

大正 6（1917）年　4 月　満蒙物産館創設

大正 7（1918）年　　関東都督府博物館と改称

大正 7（1918）年 10 月 旅順千歳町の旧露清銀行跡の関東都督府博物館分館に図書閲覧所を設置

大正 8（1919）年 4 月　都督府が関東庁に改組となり関東庁博物館と改称

大正 10（1921）年　　博物館本館に移され図書部

大正 14（1925）年 11 月 松村町に移転し博物館図書部

昭和 2（1927）年　4 月 関東庁博物館附属図書館と改称

昭和 4（1929）年　4 月 博物館から独立して関東庁図書館

昭和 9（1934）年 12 月 関東庁の機構改正により旅順博物館、旅順図書館

旅順 06「（旅順名所）関東庁博物館」

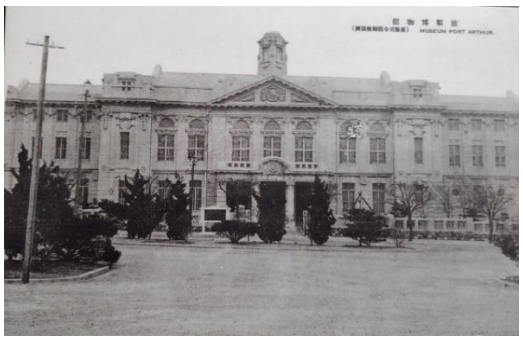
旅順 7「関東庁博物館」。記念スタンプには、「7.4.20 旅順関東庁博物館」とある。

旅順 8 関東庁博物館附属植物園「旅順戦蹟後楽園」

旅順 9「関東庁博物館植物園内音楽堂」

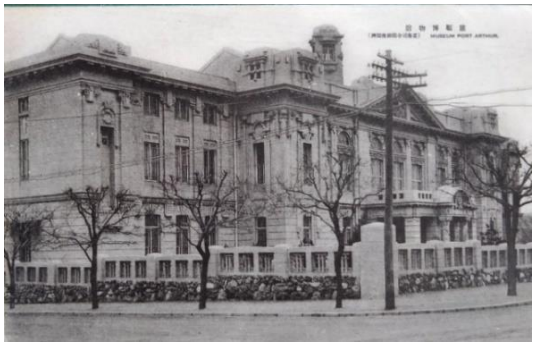
旅順 10「旅順博物館」

旅順 11「旅順博物館」。昭和 9 年 12 月に関東庁の機構改正により旅順博物館として発足した。



旅順 12「旅順博物館」、11 と同じ写真

旅順 13「旅順博物館」、11 と同じ写真。



旅順 14「旅順博物館」、斜め前から撮影されたもの。

旅順 15「旅順博物館記念館」

旅順 16「旅順工科大学」。明治 42（1909）年 5 月の「旅順工科学堂官制」で成立、大正 11（1922）年 3 月に旅順工科大学となった。

旅順 17「旅順工科大学」（２）。11 と同じ写真。昭和 17 年 5 月の『図書館雑誌』に「分類に於ける日本的性格」を書いた麓鶴雄は、この旅順工科大学図書館の職員だった（『戦前期外地活動図書館職員人名辞書』）。

旅順 18「（旅順）赤十字病院（小川寫眞店發行）」。

旅順 19「旅順 関東都督府高等法院」（西澤發行）、スタンプ「白玉山参拝紀念 旅順」。明治 39 年 8 月設置。

旅順 20「旅順府高等法院」（ゴム印）、スタンプは「□紀念 42-3-10」、「大日本帝国 壱銭五厘」の切手添付。

旅順 21「旅順新市街後楽園音楽堂」

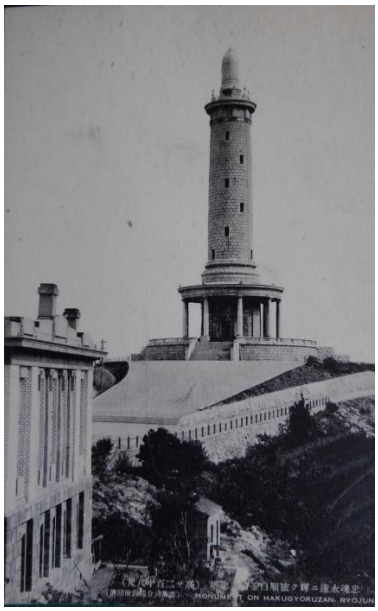
旅順 22「旅順後楽園ノ噴水」

旅順 23「旅順新市街末廣舘」

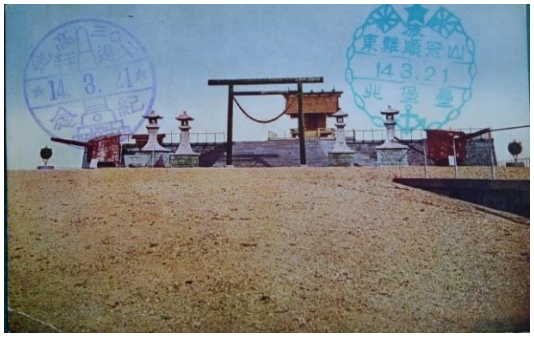
旅順 24「(旅順) 商店街青葉町 旅順舊市街中心にあつて商業最も殷盛の街である」

旅順 25「旅順黄金臺海水浴場」

旅順 26「旅順舊市街ヨリ白玉山ヲ望ム」

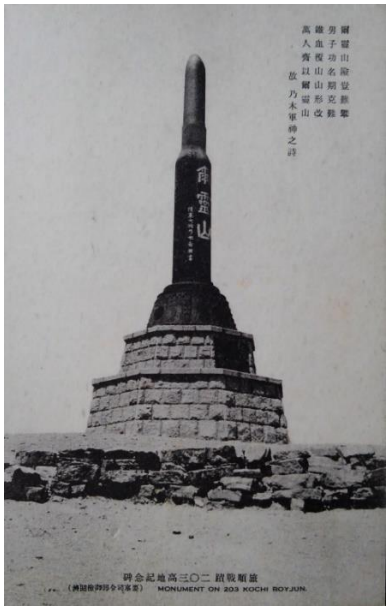


旅順 27「忠魂永遠ニ輝ク旅順白玉山忠霊塔（高サ二百十八尺」。東郷平八郎・乃木希典両大将の発議で明治 40 年起工、明治 42 年 11 月竣工。



旅順 28「旅順戦蹟白玉山納骨神社」、記念スタンプ「二〇三高地巡拝紀念 14.3.21、「旅順 東雞冠山 14.3.21 北堡壘」。日露戦役の激戦地で、戦死者 2 万人の遺骨が祀られる。

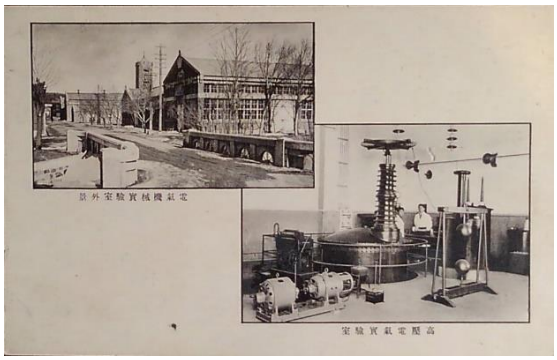
旅順 29「(旅順) 爾霊山 (二〇三高地) 明治三十七年十二月五日鐵火と熱血とを以て此の高地を占領するや、直に、此處に観測所を設け、港内碇泊中の露艦を撃滅した」



旅順 30「旅順戦蹟 二〇三高地記念碑」、乃木大将「爾霊山険豈難攀…」の漢詩

旅順 31「水師營會見所ト有名ナル棗ノ木」

旅順 32「旅順戦蹟 爾靈山乃木保典君戦死ノ記念碑」。保典は乃木希典の次男、二〇三高地でロシア軍の砲弾を受けて死去。この少し前の時期に兄の勝典も南山の戦いで死去している。



旅順 33「(旅順工科大学) 電気機械実験室外景　高圧電気実験室」